



美濃加茂市 自治会 事例集

(令和 8 年 8 月現在)

はじめに

○作成趣旨

自治会は、住みやすく豊かな地域づくりを実現するため、地域住民によって自主的に結成された自治組織であり、地域における様々な課題解決に取り組みながら、地域住民の安全・安心な環境を築くため、重要な役割を果たしています。

しかし、近年、単身世帯の増加や核家族化の進展などにより、自治会を取り巻く環境は大きく変化しています。子どもや高齢者の見守り、地域の防災・防犯など、地域の課題の多様化・複雑化、そして未加入者や退会者の増加、役員のなり手不足や高齢化、活動における負担感といった自治会活動における課題も増えてきています。このような状況の中では、自治会の本来の目的である住みやすく豊かな地域づくりに取り組むことが難しくなってきております。

そこで、市としては、これらの課題解決のヒントは地域の中にあると考え、自治会が主体的に実施している地域の課題解決や自治会活動における課題解決の活動を集め、この「美濃加茂市自治会事例集」を作成しました。本事例集には、令和4年度自治会のあり方検討会議～実践編～（※）で取り組まれた活動や令和5年度から令和7年度に実施された活動の中で他の自治会にも共有したいと考えた取り組みを掲載しています。まだまだ、掲載数は少ないですが、今後も情報収集を重ね、「美濃加茂市自治会事例集」をアップデートし、より自治会活動の役に立てるようにしていきます。

ぜひ、今後の自治会活動の参考にしていただき、これらの自治会のあり方を考える一助となれば幸いです。

※自治会のあり方検討会議～実践編～とは

令和3年度から、自治会の主体的な課題解決活動を支援する取り組みとして「自治会のあり方検討会議」を実施しています。「自治会のあり方検討会議～実践編～」は、住民自治、地域コミュニティに詳しいアドバイザー（特定非営利活動法人 ぎふNPOセンター）に協力を依頼し、参加を希望した自治会と共に、課題の深掘り、計画づくり、活動実施に向けたサポートなどの伴走型の支援を行っております。



掲載事例一覧

1. 集金袋の作成 P 3
2. 地域での防災力の強化 P 4
3. ごみ集積場でのメッセージボード P 5
4. 自治会活動のデジタル化 P 6
5. 20年、30年先を見据えた班編成 P 7
6. デジタル回覧板の実施 P 8
7. 消火栓のホース格納箱の確認 P 9
8. 地域見守りマップの作成 P 10
9. 夏祭りの復活 P 11
10. ～楽しく防災～ファミリー祭の実施 P 12
11. 防災倉庫リニューアル作戦 P 13
- (参考1) 自治会座談会について P 14～16
- (参考2) 自治会の自慢大会について P 17

※世帯数は令和8年4月1日時点のものを使用させていただいておりますので、ご了承ください。

1. 活動を始めたきっかけ

下組自治会では、自治会費、各種協力金、募金など班長が各世帯を回って集金するという仕組みになっており、班長の負担軽減のために取り組みを始めた。

－団体概要－

- ・下組自治会（古井地区）
- ・218世帯

2. 課題

- ・班によって集金方法がバラバラになっている。
- ・領収書の発行が大変
- ・何回も会いに行かないと会えない。
- ・年に何回も集金回数がある。

3. 活動内容

- ・全自治会員分の集金袋を作成した。
- ・項目ごとに分けて、協力金などは任意として、払わない人は斜線を引いたり、意思表示できるようにした。
- ・集め方としては、日時を指定して、班長宅にお金を持ってきてもらうようにした。

4. 進め方

STEP1

- ・封筒に載せる項目について検討
※自治会費以外の各種協力金や地域独自の集金についてリストアップ

STEP2

- ・集金袋での集金について役員会での承認
- ・使い方の説明書の作成
- ・班長への集金方法について共有

STEP3

- ・封筒への印刷
※データはまちづくり課からお渡しできます。

STEP4

- ・集金袋及び使い方の説明書を全戸配布

STEP5

- ・集金袋を活用した集金の実施

下組自治会		班氏名	月日	内容	金額	領収印
		自治会費		全納	8,000円	
		自治会費		1期	2,000円	
		自治会費		2期	2,000円	
		自治会費		3期	2,000円	
		自治会費		4期	2,000円	
		古井神社 運営費			500円	
		社会福祉協議会 会費			500円	
		日本赤十字社 募金			500円	
		秋葉神社お札			円	
		古井神社お札			円	
		伊勢神宮お札			円	
					円	
					円	
					円	

▲集金用封筒の見本

5. 成果と今後の展望

- ・下組自治会では、令和4年度にテスト実施をしたところ、班長や自治会員からは好評であった。
- ・封筒が一年限りなので、上に新しい紙を貼るなどして、更新していく必要がある。

6. アドバイザーからのコメント

共働きや働き方の多様化を受けて、これまでのような訪問しての集金が難しくなっています。今後、デジタルでの集金方法も広がっていきませんが、それが難しい方への対応も含めて、この集金袋の取り組みは、絶妙な取り組みだと考えます。また、他地域への展開も容易なところがいいですね。

1. 活動を始めたきっかけ

火災が起きた時など、消防署が来るまで、地域で何もできないという現状や災害時での対応に不安があったため、地域での防災力を高めよう取り組みを始めた。

2. 課題

- ・地域住民の防災意識が低い。
- ・消防用の水利の場所がわからない、消火栓等の使い方を知らない。

3. 活動内容

市の防災訓練日に消防団と連携し、各自治会単位で公民館で独自で考えたメニューを実施する防災訓練を行った。

各自治会に消防団や災害協力隊を派遣し、消防水利の確認や消火栓の使い方を地域住民に伝えた。

4. 進め方

STEP1

- ・地域における防災訓練の会議にて、一次訓練の方向性（各自治会ごとに訓練メニューを決め、消防団、災害協力隊と一緒に訓練を実施すること）を決定

STEP2

- ・各自治会ごとに訓練メニューを決定
（例：消火器の取り扱い方、地域の危険箇所の確認、水利確認、水出し訓練 等）

STEP3

- ・消防団へ訓練メニューを依頼
- ・自治会内でも防災訓練の実施内容について周知

STEP4

- ・市の防災訓練日当日に、自治会ごとに公民館等に集まり、決定した訓練メニューを実施
- ・消防団員や災害協力隊が訓練の実施をサポートする。

5. 成果と今後の展望

- ・消火器の使い方を伝えたことにより、その自治会で、消火器販売の申込件数が増えた。
- ・他の自治会で行われた内容を来年の訓練でやりたいという声が出た。
- ・消防団からも従来よりも実践的な訓練でよかったという意見もあった。
- ・地域住民の防災意識が高まるような一次訓練をすることができた。

6. アドバイザーからのコメント

地域での防災訓練の多くが惰性となる中で、本来の目的に立ち返った素晴らしい活動です。

まちづくりの意識向上には、傍観者ではなく、当事者になってもらうことが大切です。小さな単位で、自ら動いてもらう場をつくるのが、この山之上の取り組みの素晴らしいポイントです。

－団体概要－

- ・山之上地区の全自治会
- ・令和3年度から自治会のあり方検討会議に参加



1. 活動を始めたきっかけ

自治会でごみ集積場の管理をしているが、ごみ出しのルールが守られていない現状があった。具体的には、日にち間違いや分別間違いなどがあった。皆がごみ出しルールを守り、きれいな集積場にしていきたいという思いから活動を進めている。

－団体概要－

- ・川合西4自治会
(古井地区)
- ・114世帯

2. 課題

- ・ルールが知られていない現状があったり、整然と置かれていない現状がある。
 - ・再分別や持ち主がわかる場合は自治会長が返却しに行っている。
- 以上のような課題があり、残されたごみ袋の対応は自治会長の負担になっていた。

3. 活動内容

ごみ集積場にメッセージボードを作成してルールを周知した。川合地区は外国人が多く、外国人にも伝わるように多言語化も行った。今回は、「ごみは夜出さずに朝出しましょう」「年末年始は収集が休みです」「6月/10月は収集日が変わります」というメッセージを作成し、ラミネートして、ごみ集積所に設置した。

翻訳は、連絡所長を通して、市の多文化共生係に依頼した。

4. 進め方

STEP1

- ・伝えたいメッセージ内容を決める。
例：ゴミ出しは6～8時の時間帯に行ってください。

STEP2

- ・翻訳の依頼（外国語が必要な場合）
※連絡所を通して、多文化共生係に依頼できます。

STEP3

- ・作ったメッセージボードをラミネートする。
※ラミネートについては、連絡所及び環境課にご相談ください。

STEP4

- ・自治会内での集積場に設置



年末年始のうち 12月31日から1月3日は収集しません。

【ポルトガル語】Nos feriados do final e início de ano nos dias 31/dez~3/jan não haverá coleta de lixo.

【英語】Garbage will not be collected during New Year Holiday from December 31 to January 3

5. 成果と今後の展望

メッセージボードを作成した結果、ごみ集積場の問題については、軽減された。不適正な出し方は、多少はあるものの、自治会長が出し直しで対応できるような軽微なものがほとんどであった。

課題となっていた、ごみの収集日の切り替えの時期（6月と10月）については、大きな問題なく実施できた。

継続してやっていくことでごみ出しのルールが浸透していくと思うので、今後も続けていく予定。

ゴミは夜に出さずに朝出しましょう！！

【ポルトガル語】Não jogue o lixo de noite. Favor, traga o seu lixo de manhã!!

【英語】Take out your garbage in the morning not at night!!

6. アドバイザーからのコメント

温かみのある素晴らしい活動だと感じました。外国語表記も素晴らしいです。相互に描けるようになって自治会のメッセージボードのような役割になっても楽しいですね。

1. 活動を始めたきっかけ

自治会の役員の負担の少ない自治会を目指す。
ルーティン作業を減らして、地域の活動を増やしていきたい。

－団体概要－

- ・ 中部台自治会
（蜂屋地区）
- ・ 756世帯

2. 課題

ルーティン作業が多く、本来の活動ができなかった。役員の負担になってしまっていた。

3. 活動内容

デジタル回覧板の実施 ▶ 中部台742世帯中435世帯が利用中（ヒアリング時点）。残りの307世帯は紙での配布。原則紙とデジタルの同時配布はしていない。ツールは「らくらく連絡網」というメーリングリストのアプリを使用している。回覧文書はPDF化して送付。広報等はURLを送付する。

資料のデジタル化やWeb会議の実施 ▶ 自治会の資料など、Googleドライブに保存。役員なら見ることのできる仕組みを作っている。Web会議としてTeamsを使用して、役員会などを実施している。役員に高齢の方もいるが、ほぼ参加していただいている。

4. 進め方

デジタル回覧板

資料のデジタル化

STEP1	・ デジタル回覧板について自治会員への希望調査を行う。その際に、希望する方のメールアドレスも収集を行う。	・ 自治会で使用できるPCを準備する。
STEP2	・ らくらく連絡網というアプリを使い、メーリングリストを作成。収集したメールアドレスの入力作業	・ Googleアカウントを作成する。 ・ 自治会の資料をスキャナーでPDF化する。
STEP3	・ まちづくり課から回覧文書のデータの提供を受ける（月末に提供）。自治会独自の回覧文書については、自分たちでPDF化する。	・ PDF化した資料をGoogleドライブ（オンラインストレージ）に保存する。
STEP4	・ らくらく連絡網を起動し、PDFファイルを添付する。広報などは閲覧できるページのURLを添付する。 ・ 以前作成したメーリングリストで一斉送信	・ 資料の見方など、自治会員で共有する。

5. 成果と今後の展望

（デジタル回覧板）

- ・ デジタル回覧板を実施することにより、班長の広報や回覧文書の配布部数が減り、負担軽減につながった。中部台は市内でも最大規模の自治会であり、広報や回覧文書のデジタル化をすることでスケールメリットが得られやすい。
- ・ らくらく連絡網で、住人に気軽に情報発信できた。

（資料のデジタル化やWeb会議の実施）

- ・ 資料もデータ化してメールで共有する事で、印刷作業や配布にかかる手間が省け効率的になった。
- ・ 作成した資料をクラウドサーバー上に保管できるため、引継ぎの際にも、そのままアカウント名とパスワードの変更で対応できた。

6. アドバイザーからのコメント

回覧板の負担軽減はもちろん、デジタルでの連絡網ができたことが大きな成果だと感じました。デジタル化は高齢者の多い地域ではハードルが高くなりますが、多くがLINE、携帯メール等は使いつつあるため、まずはそこから始めてもいいと思います。

1. 活動を始めたきっかけ

単なる負担軽減ではなく、今まで培ってきた地域コミュニティの良さを今後も大切にしていくことを大原則としている。現在の課題だけにとどまらず、〇〇年後を見据えて住みやすく誇りに思える地域にしていこうと、ということが、見直しを進めていくうえで、根底に流れるコンセプトであった。将来に向けて世代を超えて支え合い、協力しあえる北一西自治会を目指していく。

2. 課題

班によって規模にばらつきがあったり（最小は7世帯の班がある）、脱退する人がいる。班長はやってもいいが、3役はちょっとという方がいる。

3. 活動内容

北一西自治会の役員会から委嘱されたメンバーで「北一西自治会の今後のあり方を考える検討委員会」を設置した。役割は、自治会の今後の方向性について原案を作っていくことであり、決議機関ではない。月に一回ほど、検討委員で各班が持っている課題と向き合い、そして地域全体のことを考えながら、熟議を重ねている。令和4年度末の北一西自治会総会で、検討を重ねた案を提出。

4. 進め方

STEP1

- 自治会の役員会から委嘱されたメンバーで「自治会の今後のあり方を考える検討委員会」を設置

STEP2

- 検討委員会でどのように動いていくかスケジュール作り

STEP3

- 月に一回程度の会議を開催。話し合う内容としては、以下の通り（北一西自治会の場合）

STEP4

- 自治会回覧などで、自治会員へ活動を周知
- 検討委員会での提案は、総会にかけ、審議してもらう。



北一西自治会の今後のあり方を考える検討委員会でこれまで話し合った内容

- 現在の現状と課題は何か。
- 地域が仲良くなるために何ができるか。
- 本部役員や班長の仕事をいかに負担軽減できるか。
- 年齢構成と今後の見通しはどのようになっていくか。
- 役員の年齢制限を設けてはどうか。（結果→班ごとに任せることになった。）
- 班編成の線引きをどうするか。
- 現行のコミュニケーションを活かしながら、新たな班編成に移行できるか。 など

5. 成果と今後の展望

役員会から委嘱された人が何度も話し合ってきたという実績を作り、諮問委員会の決定を役員会に提案していくという形をとったことで、全体にも受け入れられたのではないかと考える。

委員会からのお便りも発行したことで、委員会の進行状況を伝えることができたことも良かった。

課題としては、令和7年度からの新たな班編成発足のためのステップは、まだ実際に動いていないので、その動き出しを計画的に行っていく必要がある。

6. アドバイザーからのコメント

なかなか手をつけることが難しく先延ばしになりがちな問題に取り組まれています。このように、難しい問題には、1年ごとで交代する自治会長よりも、別途委員会を設けることが有効です。班編成には、データでの検討も必要になるため、データ提供や分析を行政等に協力してもらうといいと考えます。

1. 活動を始めたきっかけ

回覧板が回るのに時間がかかってしまい、情報を自治会員に素早く届けることのできる方法を模索していた。そこで、デジタル回覧板を自治会内に導入し、情報を確実かつ迅速に伝達し、いつでもどこにいても回覧板を確認することができるようにし、自治会員の回覧板に対する満足度向上を目指した。

2. 課題

- ・回覧板を回すのに時間がかかる。
- ・デジタル回覧板を実施にあたっては、自治会員の理解や普及、コスト面が課題であった。

3. 活動内容

- ・「LINEのオープンチャット機能」と「Googleドライブ（オンラインストレージ）」を組み合わせたデジタル回覧板を導入した。
- ・「LINEのオープンチャット機能」を使用することで、自治会員へのプライバシーへの配慮を行った。
- ・回覧文書や広報をPDFにして、「Googleドライブ」に保存することで、過去の文書等が見返せるようになった。
- ・自治会内での普及促進のため、チラシの配布と説明会を実施

4. 進め方

STEP1

- ・自治会内でデジタル回覧板を進めていくことについて、協議を行い、合意を得る。
- ・回覧文書のPDFデータ提供のため、まちづくり課へ相談

STEP2

- ・〇〇自治会という「LINEオープンチャット」を作成
- ・自治会でGoogleアカウントを作り、「Googleドライブ」を使用できる環境を作成

STEP3

- ・チラシ等を自治会員へ配布し、利用者を募る。
- ・利用者が「LINEオープンチャット」に参加登録

STEP4

- ・回覧文書等PDFデータを「Googleドライブ」へ保存
- ・「Googleドライブ」のURLを「LINEオープンチャット」に共有し、利用者が回覧文書を見えるようにする。
- ・「LINEオープンチャット」で回覧メッセージを配信

※今回は大まかな流れをご紹介させていただきましたが、そもそも「LINEオープンチャットの始め方がわからない」、「Googleドライブの始め方がわからない」といった方は、一度まちづくり課へお電話ください。

5. 成果と今後の展望

成果としては、デジタル回覧板を導入後、若い世代を中心に利用が広がり、普及率が約40%まで上がった。また、自治会内でアンケート調査を行ったところ利用者の満足度は85%となった。

今後は、デジタル回覧板を利用している人で、紙ベースの回覧板や広報を不要という方がいるので、併用ではなく、配布部数の削減を行い、班長等の負担軽減に繋げる。

また、運用を持続可能にしていけるため、自治会内で「デジタル委員」を設置していく。

6. アドバイザーからのコメント

できない人のために、説明会を実施しており、さらに今後、「この人に聞けばいい」というデジタル委員を検討されているということが素晴らしいです。デジタルとアナログを混ぜ合わせながら取り組まれていることがポイントです。

ー団体概要ー

- ・西町東自治会
(太田地区)
- ・130世帯



1. 活動を始めたきっかけ

地域での防災訓練を行った際に、水出し訓練を行った。その際に、ホースや筒先の劣化（パッキンが原因？）により、水がうまいこと前に出なかった。令和4年度には建物火災が複数回あり、危機感を覚えたことがきっかけ。

－団体概要－
・ 森山連区（古井地区）
・ 547世帯

2. 課題

- ・ ホースの格納箱の管理を、自治会員が自治会管理ということを認知していない。
- ・ 格納箱の中身を確認できていない。（ホース、筒先、Tバーの3点セット）
- ・ 箱を開けるだけではわからないパッキンの劣化がある場合もある。

3. 活動内容

- ・ 市防災安全課からホースの格納箱の位置情報を提供してもらう。
- ・ 実際に、ホースの格納箱の中身を目視で確認
- ・ 古いホース等は「自主防災事業補助金」を活用し、新しいものに買い替える。
- ・ パッキンの取り替えは業者へ依頼する。※補助金の交付対象

4. 進め方

STEP1

- ・ 防災安全課からの情報を基にホース格納箱の位置を確認
 - ・ 実際に確認しに行き、中身を確認する。
- ※この際に、ホース格納箱についてリスト化できると良い。

STEP2

- ・ 自治会内で現状について共有し、買い替えや取り替えについて協議を行い、どうしていくか自治会内で決定
 - ・ 費用面でも自治会からの持ち出しもあることも共有
- ※補助率が費用の2/3のため。

STEP3

- ・ 買い替えやパッキンの取り替えについて、業者との打ち合わせ。その際に見積書をいただく。（補助金申請に必要なため）

STEP4

- ・ 「自主防災事業補助金」の申請を行う。
- ・ 業者へ取り替え等を依頼



5. 成果と今後の展望

- ・ 古いホースは廃棄し、新しいものを入れることができた。また、ホースや筒先のパッキンを取り換えることによって、安全に使える状況となった。
 - ・ リストと位置図を作ったので、更新を定期的に自治会で行う。
- （課題）火災などの際に、ホースを使える人が少ない。各家庭で消火器などを設置したり、地域として防災意識を高めていく必要がある。

6. アドバイザーからのコメント

このように、自治会が管理しなければいけないものと、自主防災事業補助金のように、行政から補助金がでることが、認知されていないことが実情です。「自治会長の引き継ぎ帳」のようなものがあると、引き継ぎもスムーズになると考えます。

1. 活動を始めたきっかけ

社会環境や個人の価値観などの変化に伴い、地域のつながりが薄くなってしまった。高齢化も進んでいる。ついては、一人暮らし高齢者をはじめ、心配な世帯を把握するため、地域で見守りマップを作成し、安心して過ごせる地域づくりを進める。

－団体概要－
下米田地区自治会長会、
民生児童委員、福祉委員が
連携して実施

2. 課題

- ・見守りが必要な人を把握できていない。
- ・どうやって見守るかわからない。
- ・災害時はだれかが声かけをする必要がある。
- ・自治会長だけでなく、民生児童委員、福祉委員等との連携が必要。

3. 活動内容

- ・自治会長、民生児童委員、福祉委員が参加し、協議する場を設定する。
- ・自治会ごとにマップを作成。「避難行動要支援者」「地域で見守りが必要な人」を落とし込んでいく。
- ・ご近所で協力してもらえる見守りパートナーの発掘を行う。
- ・マップの情報を自治会の班長と共有する。

4. 進め方

STEP1

- ・一人暮らし高齢者など地域で見守りが必要であることを確認し、そのための手段のひとつとして「見守りマップ」を作成することについて、合意形成。
特に、民生児童委員、福祉委員など地域福祉に携わっている方とは連携できる体制づくりは必要となる。

STEP2

- ・地図を用意して、「避難行動要支援者」「地域で見守りが必要な人」を落とし込んでいく。
※「地域で見守りが必要な人」には、見守る対象としてマップに載せ、関係者と情報共有することに同意していただく必要がある。

STEP3

- ・日常の見守りと災害時の声かけをする見守りパートナーの発掘をする。近所の方に見守りパートナーになっていただくために、自治会各班の協力が必要になってくる。

STEP4

- ・不測の事態が起きたときに必要なのはマップの情報。自治会長は班長にもマップを見せて情報を共有する。下米田地区では、速やかに有効に活用できるよう、マップは自治会長が管理をしている。



5. 成果と今後の展望

- ・自分の自治会に、見守りが必要な人が複数あることを知った。
- ・みんなの頭の中にある情報を「見える化」したことで情報共有が進み、日常の見守りや災害時の対応に多くの方の協力を得やすくなった。
- ・気になる人について相談できる場ができた。
- ・マップを有効活用するため、自治会班長会での情報共有、自治会防災訓練で活用するなどしてみたい。

6. アドバイザーからのコメント

阪神淡路大震災において、救助された主体が消防・警察・自衛隊は約23%だったことに対し、近隣住民に助けられた人の割合は約77%でした。自治会の大きな役割は命を守ること。まず見える化することが大きな一歩となります。

1. 活動を始めたきっかけ

台風と新型コロナにより5年間行われていなかった夏祭りを復活させ、大人も子どもも楽しめる、地域の交流の場をつくりたい。

2. 課題

- ・組織（盆踊り保存会）が1年ごとに交代でノウハウが継承されていない。
- ・以前行われていた夏祭りにはぎやかだったが、自治会役員の負担感（協賛金集め、食品バザーなど）がかなりあった。
- ・お楽しみ抽選会があったが、自治会員以外に賞品が当たり自治会員から不満が出るトラブルがあった

3. 活動内容

- ・まちづくり協議会が夏の終わりに行ってきた天乳池をキャンドルで彩るイベント「ナイトあまち」と合わせて開催。
- ・協賛金集めはやめ、自治会協力費で運営。
- ・食品バザーはやめ、キッチンカーを呼び対応。一部のテーブルといすはレンタルし、準備の負担を軽減。

4. 進め方

STEP1

- ・まちづくり協議会から「夏祭りをナイトあまちと一緒に開催しては」と提案をいただく。
- ・盆踊り保存会とまちづくり協議会で構成される「かものフェスティバル実行委員会」を組織する方針を決定。

STEP2

- ・盆踊り保存会運営委員会で「かものフェスティバル実行委員会」へ参画することについて承認。

STEP3

- ・かものフェスティバル実行委員会で「盆踊り・コンサート部会（担当：盆踊り保存会）」、「ナイトあまち部会（担当：まちづくり協議会）」、「カフェ・ピアガーデン部会（担当：第5分団）」の3部会に分けて準備を進めていくことを確認。

STEP4

- ・最終打ち合わせ会で当日の準備、運営、翌日の片付けのスケジュールについて確認。

STEP5

- ◎かものフェスティバル2023の実施
 - ・ステージイベント（コンサート）
 - ・ナイトあまち※雨天のため中止
 - ・盆踊り（生演奏と音源による）
 - ※雨天のため交流センターで実施
 - ・キッチンカー&ピアガーデン
 - ・スーパーボールすくい、輪投げなどの縁日



－団体概要－

加茂野町盆踊り保存会（加茂野地区自治会長、消防団第5分団など）、（一社）加茂野町まちづくり協議会

5. 成果と今後の展望

- ・当日は悪天候によりナイトあまちが中止となり、一部イベントを屋内で実施することになったが、子どもたちを中心に皆さんに楽しんでいただくことができた。
- ・キッチンカーを導入することで、自治会員の負担軽減を図りながら実施できた。
- ・イベントは自治会員以外の方も来るので、今後はイベントが自治会負担金で実施されていることをアピールし、自治会活動に関心を持ってもらえるようなことができれば。
- ・継続的にフェスティバルに関わっていただける人材を確保していくことが課題。

6. アドバイザーからのコメント

まちづくりの取り組みにおいて「掛け合わせ」が大切なポイントです。掛け合わせることで、人のつながりもアイデアも広がります。地域運動会×防災訓練、放水訓練×溝掃除などなど。今回も夏祭りとナイトあまちを掛け合わせたことが、新しい取り組みを生み出しています。

1. 活動を始めたきっかけ

ライフスタイルや価値観が変化する中で、「昔からの慣例だから」とこれまで通りの運動会やスポーツ活動などの地域行事を、ただ続けるだけでは地域は疲弊してしまう。

そんな危機感を持ち、一度立ち止まり、「やめること」と「残すこと」、そして「新たに始めること」を考え直し、旬のサンマを食べて楽しく交流しながら、訓練としての役割ももつファミリー祭を2015年からスタート。

コロナ渦は中止していたが、2025年に復活。

2. 課題

「つながりの希薄化」

- ・挨拶や立ち話などの日常的な交流の減少：隣に住んでいても顔や名前を知らない、話す機会がない。
- ・助け合いや支え合いの機会の減少：困った時に頼れる人が身近にいない、災害時など緊急時に互いを助け合う意識が低い。
- ・多世代交流の減少：子どもから高齢者まで、異なる世代が交流する機会が少なくなる。

3. 活動内容

- ・災害時に助け合える地域づくりをテーマに、焼きたての丸干しサンマの炭火焼き、フィリピン式バーベキュー、豚汁、災害時に活用する非常食の試食等。
- ・子どもたちには絵本の読み聞かせ、駄菓子コーナー。
- ・防災土さんの防災講和等。
- ・外国籍の自治会会員もいるので、バーベキューなど活躍できる場をつくる。

4. 進め方

STEP1

- ・企画実施に向け、ミーティングを行う（月に1回程度）

STEP2

- ・協力してくれる人を中心に集め、実行委員会を作る

STEP3

- ・自治会回覧などで周知

STEP4

- ・ファミリー祭の実施



5. 成果と今後の展望

- ・ご近所さん同士、話し合える関係性、共通の話題をつくることができた。このような関係づくりが「いざという時の助け合い」にもつながり、地域の防災力向上にも寄与する。
- ・ファミリー祭を始めたキーマンに頼らずに、地域としてどのようにこの企画を継続していくかが課題となっている。

6. アドバイザーからのコメント

地域で良い企画をつくるためには「かけあわせ」がポイントとなります。「ファミリー祭」の中で防災訓練を取り入れることは、見事なかけあわせとなり相乗効果が生まれている事例です。

1. 活動を始めたきっかけ

物置状態の防災倉庫があり、前々から災害対応できる防災倉庫にしたいと思っていた。自治会長になり、自治会に入っている『メリット』を構築することも今後重要になると考え、この防災倉庫をリニューアルすることで災害時の『共助』『自助』の強化だけでなく、メリット化ができないかと考えた。

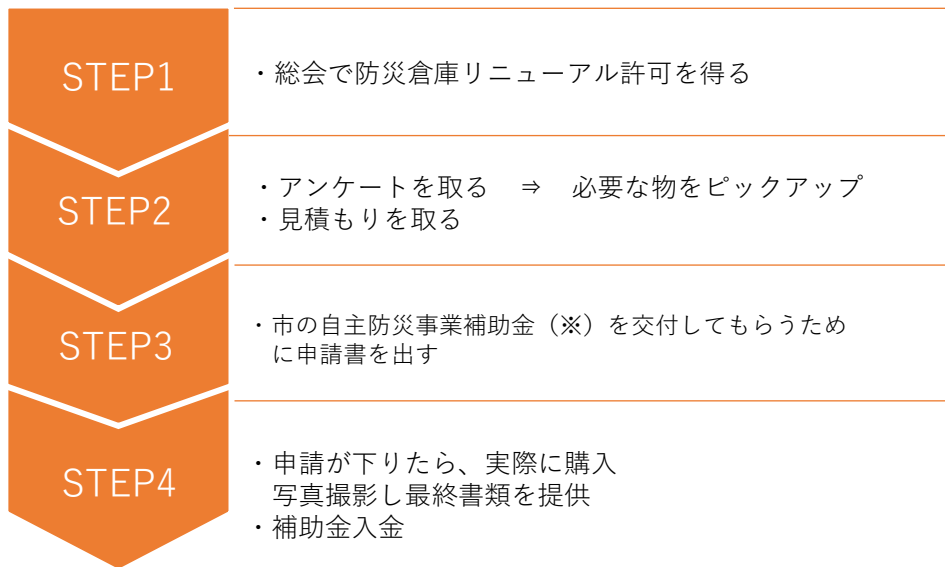
2. 課題

- ・防災倉庫が物置になっている。
- ・災害時の準備ができていなかった。
- ・自治会のメリット化ができていなかった。

3. 活動内容

- ・防災倉庫の片づけ。
- ・一世帯ずつにウォータータンク、簡易トイレ100回分を購入。
- ・自治会通信を発行し自治会長の動きや活動を見える化。
- ・補助金の活用。

4. 進め方



－団体概要－
万場自治会
活動地区 太田地区
世帯数 26世帯



万場自治会通信①
2025年6月末発行：文責 自治会長 熊崎万穂

1 万場防災倉庫についてのアンケート結果①
回答：25世帯中7世帯（自治会長除く）

①世帯用の備蓄品の水についてどちらかいいと思うものに○をしてください。
こちらに決定！

2票	10年保存水 1.8L×12本 1本322円	5票	7年保存水 2L×12本 1本248円
----	------------------------------	----	---------------------------

②防災器具として必要と思うものに○をしてください。（いくつでも）

- ・チェンソー1票・発電機2票・ジャッキ1票・一輪車2票・土のう3票
- ・ビニールシート4票・ロープ3票・止水板1票・ハンマー3票
- ・スコップ2票・バール4票 ※2票以上を採用。リアカーは予定通り育成会。

他に必要な物やご意見②※補助金不能使用不可の物

着替え等に使用する1人用のテント（男女2つ・着替え用2つ）
応急手当セット・ポータブルIH調理器・乾パン
段ボールの囲い・段ボールベット・最低限調理する為の米
軍手・保温アルミシート・使い捨てカイロ・懐中電灯×2票
手袋・ガムテープ・調理に必要な物・段ボール
モバイルバッテリー・バケツ・簡易浄水器・ほうき・ちりとり
ゴミ袋・ヘルメット・マスク ※水と同様にポリタンクも用意。

※自主防災事業補助金…自主防災組織または自治会が行う、防災訓練及び防災施設の整備に対して、補助金が交付されます。

防災用品については、費用の2分の1の額が補助されます（実施前に防災安全課に申請が必要です）。

5. 成果と今後の展望

- ・一家に一つ、防災ウォータータンク20L、簡易トイレ100回分備えたこと。
- ・自治会のメリットを感じられたという自治会員の声があった。
- ・物だけでなく、安心感という心の面もサポートできた。

6. アドバイザーからのコメント

自治会本来の役割は「共助による助け合い」であり、福祉や防災が中心となりますが、防災は他人事になりがちです。防災用品を世帯ごとに用意したことで、見事に自分ごと化した素晴らしい事例です。

1. 自治会座談会とは？

自治会座談会は、自治会活動の困りごと・悩みなど持ち寄っていただき、参加者の皆さまと共有することを目的に開催しています。自治会座談会の特徴としては、グループワークを行ったり、付箋を使って意見を言ったりすることはありません。座談会の名のとおり、参加された自治会長の皆さまで話し合うことを大切にしています。

－ 参加方法 －

市からの広報配布時に、自治会長宛てに座談会のチラシを配布いたします。日時、場所等を確認していただき、申し込みフォームまたは電話で申込をお願いいたします。



2. これまでどんな話があった？

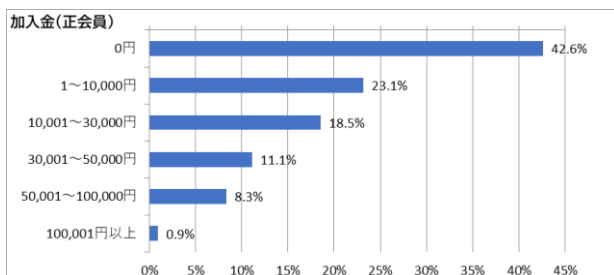
自治会座談会でテーマに挙がった話の一部を紹介します。ぜひ、自治会活動において、参考にしてみてください。

①自治会のメリット・デメリットについて

- 自治会は住民組織であり、市がメリット・デメリットを示すものではない。自分たちでメリット・デメリットが示せないといけないと思う。行政から言われてやるものであると長続きしない。実際に生活している中からメリット・デメリットをつくらなければならないと思う。住民がお互い納得しなければ形だけになってしまう。
- 自治会に入ると、役や消防団などいろいろな負担があると思われる。
- 「自治会のメリットは何か」という問いに対して「あなたがメリットを作ってほしい、それができるのが自治会です」と伝えた。自分たちで自分たちの自治会は変えられるという意識を持たせたい。
- 子どもたち、青年、高齢者すべての人が楽しめる行事を作っていくことが、入りたいと思える自治会づくりだと思う。夏祭りは自治会員でなくても参加できるので、外に出て行った人も戻って参加している。
- 祭りで人が集まる中でいろいろな話をすることでつながりが強化され、防災にも繋がっていると思う。自治会内で楽しみがあることがメリットだと思う。
- 自治会のメリットはみんなで協力できることだと思う。
- 防災や防犯のメリットがある。自治会内の消火栓の位置を回覧板で周知した。
- 自分たちが運営していく組織なので、生活の一部みたいな形で捉えてほしいとも思っている。自治会に入っている人はそのメリットがすごく感じられると思うが、入っていない人はなかなか感じづらいと思う。

②自治会の入会金について

- 公民館を建てたので、3万円としていたが、現在は2万5千円。さらに、入会者の負担軽減のため、1年間は、自治会費を免除した。
- 規約に書いてある1万円としている。
- 入会金と公民館運営会費として2万円集めているが、両方とも令和6年度から無くしていく予定。
- 入会金は集めていない。
- 財産区がある関係で入会金が10万円となっている。
- 新たに自治会に加入される方に、公民館の修繕や維持管理のために入会金をいただいているとしっかりと説明している。例えば、一部を増築した際にどのくらい費用がかかるかなどの資料も作っている。一度に集めると負担が大きいので、少しずつ集めておくことの必要性を伝えている。丁寧に説明することで、納得される方が多い。



(参考) 令和7年度自治会長アンケート抜粋 自治会加入等に係る金額

③自治会長の報酬について

- ・座談会へ参加している自治会の自治会長の報酬については、報酬なしの自治会、報酬あり（1万円～5万円）の自治会と様々であった。副会長、班長、民生委員、氏子総代に報酬がある自治体もある。
- ・慶弔費の取り決めも様々で自治会長の報酬から出す自治会もあれば、慶弔費の支払いは別になっている自治会もある。

④役員の選出について

- ・1年目に会計、2年目に副会長、3年目に自治会長をやるようになっている。
- ・12月に翌年度の役員を決める。
- ・自治会長は選挙で選んでいるが、監査⇒副会長＋会計⇒自治会長⇒相談役という流れはあり、大体年齢順で選出される。
- ・選挙は過去にやっていたが、形骸化しているため廃止した。

⑤各種協力金・募金について

- ・班長が集金するのも大変であったため、年4回の集金を年2回に減らし、会計の負担も減らした。前半期の集金時に協力金は全部集めている。
- ・総会で説明し、会費と合わせて一括で徴収している。
- ・自治会費の集金前に、協力金についても各世帯出すかを紙に○×で記入してもらい、合計の金額を集めている。集金が年1回で済む。
- ・自治会費の集金手段として、スマホ決済サービス「PayPay」を活用している自治会もある。

⑥自治会における退会対策について

- ・年齢に応じて、役員免除の仕組みがある。
- ・自治会野球やバレーボール大会など若者が集まっているところに応援に行っている。しっかりと顔を出しコミュニケーションを取っている。自治会長が腰を上げて、積極的に関わりに行く姿勢が大切だと思う。結果的に退会を防ぐことにつながると思う。

⑦担い手不足問題

- ・自治会活動について、全部自治会で行うというのは、今後ますます厳しくなってくる。自治会だけの力では難しければ、外の力を借りる必要がある。今年やったイベントでは、ブース出店を企業や団体の力を借りて行う部分を作った。評判もよく、外からの力を借りる努力をしてみるのも良いのではないかなと思う。また、この取り組みの中で高校生にも協力してもらった。自治会がやっていることに若者を関わらせる努力はこれから必要になってくる。

⑧自治会における防災活動について

- ・自主防災組織の再編を行った。自治会長や班長をそれぞれの役割に充てるのではなく、消防団経験者に協力していただき、班長になってもらった。
- ・防災訓練時は、自治会独自でメニューを考えて実施した。ホース格納庫からホースを畑かんにつなぎ、放水訓練を行った。
- ・安否確認等の情報収集は大事で、自主防災組織でLINEグループを作って情報収集し、自治会長へ報告するような仕組みも作った。
- ・災害時の安否確認に使う名簿を更新した。自治会員に依頼する際に、災害時の状況なども説明し、連絡先や家族構成、血液型などの情報の必要性を訴えたところ、ほぼ100%の世帯が協力してくれた。

⑨自治会と神社について

- ・以前は自治会の会費の中に神社費があったが、今は自治会とは切り離している。
- ・公民館を建て替えたタイミングで氏子会と自治会を別組織にした。切り替えの際は多少のギクシャクはあったが納得してもらえている。今は、会費、集金、会計も別になっている。

⑩未加入者のゴミの対応について

- ・「未加入者のゴミは出せません」とメッセージを掲示している。しかし、あまり効果が感じられない。
- ・ゴミ捨て場にダイヤル式の鍵をつけている。市から出るごみ集積場の管理費を使い、購入した。
- ・未加入者からごみ集積場の利用料をとっているという自治会もある。
- ・未加入者に対して、ごみ集積所利用料として、市の集積所の利用料を基準に、月 1,000 円×12 ヶ月＝年間 12,000 円お金を徴収することを検討している。
- ・ルールさえ守っていただければ、自治会員以外が集積場にごみを出すことは問題ないと思っている。
- ・ゴミ袋に名前を書くということで責任を伴うため、名前を記載してもらうように働きかけている。
- ・ゴミについては、名字だけでも書くようにチラシを作り、周知しようと考えている。
- ・集積所に防犯カメラを設置している。外国語による「カメラ設置を知らせる看板」も設置した。抑止効果にはなっていると思う。

⑪自治会のデジタル化について

- ・若い世代を中心に「紙は不要でスマホの方が見やすい」という意見も多く、広報のペーパーレス化には賛同を得ている。今後は希望者への紙配布と並行して、デジタルでの情報共有を模索する予定。
- ・「らくらく連絡網+」という専用アプリを活用し、ペーパーレス化を進めている。
- ・デジタルのデメリットとして受け身であるということ。自分から情報を取りにいかねばならない。絶対に伝えたい情報は紙で回すようにしている。
- ・役員間ではLINEを活用しているものの、未利用者への情報伝達や、自治会長のPCスキル差もデジタル化を阻む要因である。

⑫自治会行事について

- ・50年の歴史を持つ夏祭りは、コロナ禍を経て3年前に小規模で復活し、今年は本格開催に成功した。自治会費を投じて飲食物を無料で提供することで、保健所、消防署への申請負担を軽減し、市長も参加する盛況ぶりだった。過去の助成金で導入した音響設備も活用され、地域企業からの準会費が自治会運営を支えている。
- ・コロナ禍を経て自治会の野球部が中心となり夏祭りを継続している。参加者の半数が外国籍という状況で、誰でも歓迎する姿勢が地域の治安維持に貢献していると考えられる。小中学生ボランティアや外部の協力も得て交流の輪を広げたいと考えており、地域との関わりを幼少期から教えることが重要になる。

3. アドバイザーからのコメント

自治会長座談会は、会長同士が学び合いを行う大変良い場となっています。自治会は、それぞれが試行錯誤し運営しているため、自身の困りごとについては、すでに取り組んでいる自治会も多く、その取り組みが大いに参考になります。

特に、入会金や年会費等のお金に関する問題は、新規入会のハードルの一つとなっていますが、コロナ禍での活動見直しや、各種協力金の見直しなどにより、これまでどおりお金を集めなくても活動ができる自治会も増えてきました。また、ごみ集積場の問題についても、「未加入者からごみ集積所の利用料を徴収している」「防犯カメラ設置を知らせる看板を設置したら抑止効果になった」という声が聞かれました。他の自治会の事例が非常に参考になっています。

自治体職員向け情報誌『ジチタイワークス』に、
美濃加茂市の取り組みが掲載されました!!

記事の詳細は
こちらから→



第7回「澁澤寿一さんと自治会について語る会」

第4回「自治会行事を考える会」



1. 自治会の自慢大会とは？

頑張っている自治会の取り組みを応援し、その活動を他の自治会に知ってもらうことを目的に「自治会のいいところ教えてください～自治会の自慢大会～」と題して、各自治会の活動を募集しました。令和7年度は、7つの自治会から事例の応募がありました。

応募いただいた事例については、事例集にまとめ、自治会長へ配布いたしました。また、令和8年度の自治会長研修会において、事例発表の場を設け、他の自治会長にも知っていただく機会を作りました。



▲自治会の自慢大会 事例発表の様子

2. 掲載事例について

令和7年度は、自治会内でのつながりづくりのための「祭りやイベント」、地域の防災力を高めるための「防災訓練や防災設備の設置」、より良い自治会を作っていくための「総会や清掃活動の改善事例」が掲載されています。

どの取り組みも大切な取り組みであり、他の自治会でも参考になります。ぜひ、ご一読いただけますと幸いです。

※自治会の自慢大会事例集は市のHPに掲載されています。右の二次元コードを読み取り、ご確認ください。



3. 今後の自治会の自慢大会について

令和8年度も自治会の自慢大会を実施予定です。自治会長の皆様には、1月の広報配布時にご案内させていただきます。

○地域のつながりが深まった活動

例：地域の夏祭り、自治会野球優勝など

○困りごとの解決につながった活動

例：LINEを使った情報共有など

○他団体と協働で行った活動

例：防災訓練、見守りマップ作成など

以上のような活動など、自治会に関する取り組みであれば、どんなことでも構いません。

自治会活動のちょっとした一コマでも大丈夫です。

多くの自治会からのご応募お待ちしております。

また、応募いただいた自治会には、自治会活動に使えるアベマキ（※）で作成した回覧板をプレゼントする予定です！

※アベマキとは、美濃加茂市の里山に多く自生している広葉樹で、里山資源として有効活用しています。

中部台パークイベントの様子（令和6年度応募事例）▼

自治会のいいところ教えてください～自治会の自慢大会～

各自治会、または自治会組織で取り組まれている活動を募集します。
自治会における特色ある活動や改善活動について、市内の自治会に知ってもらい、他自治会の活動に活かしてもらいましょう！

活動内容例

- 地域のつながりが深まった活動
例：地域の夏祭り、自治会野球優勝など
- 困りごとの解決につながった活動
例：LINEを使った情報共有など
- 他団体と協働で行った活動
例：防災訓練、見守りマップ作成など

対 象 市内単位自治会及び複数の自治会の連合組織

結果共有 申請のあった活動は、自治会長に共有及びHP上で公開予定です

申 請 自治会会費などなたでも可
※ただし、申請の際は自治会長に事前に確認すること

申請方法 別紙申込書による申込
(まちづくり課または連絡所に提出)、またはチラシ右下二次元コードから

募集期間 令和7年12月10日(水) 令和8年1月30日(金)

詳しくはこちらまでお問い合わせください

美濃加茂市役所まちづくり課 美濃加茂市自治連合会 ☎0574-25-2111 8:45～16:45 (内線 362)

応募された自治会にはアベマキ製回覧板プレゼント！

▲令和7年度自治会の自慢大会 チラシ

○様々な事例を募集します！

まちづくり課では、自治会内で行われている様々な活動事例を募集しています。

特に

- ・未加入世帯への加入促進の取り組み
- ・地域内での絆、つながりづくりのために取り組んでいること
- ・自治会内での高齢化対策（役員負担軽減、見守り活動等）

といった活動で効果があった取り組みや特色ある取り組みの事例などがあれば、ご教示いただけますと幸いです。

上記以外の取り組みも募集しておりますので、お気軽に以下の連絡先までご連絡ください。

○自治会内で取り組んでみたいけどどうすればいいかわからない方へ

自治会活動専用相談窓口を以下のとおり設置します。

当日は、アドバイザーから取り組みの進め方や他自治体の事例のアドバイス等をいただくことができます。

興味があるけど取り組み方がわからない方など、ぜひご相談ください。

自治会活動専用相談窓口の概要

日時と場所	【日時】	【場所】	【時間】
	希望される日及び時間帯 （9時～21時の間）をお伝え ください。 アドバイザーと調整の上、ご 連絡させていただきます。 ※12月29日～1月3日は相談を行 いませんのでご了承ください。	・対面での場合 公共施設または自治会の公 民館等で実施可能です。 ・オンラインの場合 Zoomを使い、オンラインで の相談を行います。	1回あたり1時 間を予定します。
相談内容	自治会活動に関する困りごと、自治会の組織に関する困りごと等、自治会運営につい てどんなことでも相談ができます。 （過去の相談内容の例） ・外国籍の方への自治会勧誘についてどうすればよいか。 ・自治会の規約について見直しを行いたい。 ・自治会の活動の見直しを進めたいが、どのように自治会員に説明するのがよいか。 ・自治会の統合について意見が出ているがどのようにしていけばよいか。 ・役員の見直しについてアイデアが欲しい。		
申込み方法	右のオンラインフォームから申込み または以下の問い合わせ先に電話で申込み ※先着順に受け付けさせていただきます。		申込みフォーム 
その他	・完全申込制となっておりますので、相談を希望される方は 2週間前までに申込みください。		

○問い合わせ先

- ・まちづくり課 25-2111 (内線362)
- ・太田連絡所 26-2628
- ・古井連絡所 25-2058
- ・山之上連絡所 25-2739
- ・蜂屋連絡所 25-2901

- ・加茂野連絡所 25-2493
- ・伊深連絡所 29-1395
- ・三和連絡所 29-1001
- ・下米田連絡所 25-2714

発行 令和8年8月

美濃加茂市市民協働部 まちづくり課
〒505-8606 美濃加茂市太田町3431-1
電話：0574-25-2111(内線362)
FAX：0574-25-3917
メール：machi@city.minokamo.lg.jp